

エスキシェヒル・カラチャイ語における「動詞+*tur-*」

藤家洋昭 Akbay, Okan Haluk

大阪大学

1. はじめに

エスキシェヒル・カラチャイ語は、トルコ共和国エスキシェヒル県で話されているチュルク系の言語のひとつである。チュルク系の言語に属する言語にトルコ語、ウイグル語、カザフ語などをあげることができる。エスキシェヒル・カラチャイ語についてのこれまでの記述はまったくないわけではない[1] が、極端に少なく、詳しいことは何もわかっていないといってもさしつかえない。本研究では、エスキシェヒル・カラチャイ語における動詞+*tur* という形をとりあげる。この形は日本語における「動詞+ている」のようにアスペクトを表すと考えられるが、詳しいことはわかっていない。そこで、本研究では、エスキシェヒル・カラチャイ語の動詞+*tur-*の解明の第一歩として、どのような動詞が *tur* と結びつくか、そして結びついたときにどのような意味になるかを明らかにすることを目標とする。なお、表記についてであるが、エスキシェヒル・カラチャイ語の公式な表記法は存在しない。本稿ではチュルク語共通アルファベット(*Ortak Türk Alfabesi*)によりエスキシェヒル・カラチャイ語を表記する。

2. 問題のありか

エスキシェヒル・カラチャイ語において、動詞+*tur* という形がアスペクトを表すらしいということはエスキシェヒル・カラチャイ語のデータを考察する過程でわかってきた。動詞+*tur* という形がアスペクトを表すのであれば、次のステップとしてこの形が具体的にアスペクトに関する何を表しているかということを一明らかにすること

が必要になる。エスキシェヒル・カラチャイ語は系統的にはチュルク系の言語である。他の多くのチュルク系の言語と同じように、主語-目的語-述語、すなわち *SOV* の語順を持つ主辞後置型の膠着語であり、語順などについては日本語と似た印象を与える。本研究でとりあげる動詞+*tur* という形も、日本語における「動詞+ている」と表面的には一見似た印象を与える。日本語の「動詞+ている」についての研究は、金田一[2]以降膨大なものがあることをあえて示す必要もない。本研究ではそれら日本語の「動詞+ている」の研究を参考にしつつエスキシェヒル・カラチャイ語の「動詞+*tur*」を記述する。具体的には、どのような動詞が *tur* と結びつき、結びついたときのアスペクト意味がどうなるかということを一明らかにすることをめざす。

3. データ

この章では、エスキシェヒル・カラチャイ語における「動詞+*tur*」に関するデータを考察する。なお、本研究で扱うデータはすべてエスキシェヒル・カラチャイ語の母語話者(1970年代生まれ)からフィールド言語学的手法により直接採集したオリジナルなものである。

3.1 独立した動詞としての *tur-*のデータ

「動詞+*tur*」という形に見られる *tur-* は、何らかの動詞に後続しない *tur-*、つまり独立した動詞として用いられる *tur-* と形式が一致する。ここでは、「動詞+*tur-*」における *tur-* と独立した動詞として用いられる *tur-* が本来的には同じものであるという前提に立ち、*tur-* が独立した動詞と

して用いられる場合の用法を見る。ただし、独立した動詞としての **tur-** についても記述は進んでおらず、不明な点が多い。

これまでの調査[3]の結果では、**tur-** には大きくわけて次のような意味用法がある。

・「住む、暮らす」

(1) **Biz hoyda turabız.**

私たち・村に・**tur** 現在・一人称複数「私たちは村に住んでいます。」

・「起きる、起き上がる、立つ、立ち上がる」

(2) **Tur keç boldu!**

tur 命令 2 人称単数・遅く・なった「起きなさい、もう起きる時間です。」

(3) **Turuguz keteyik!**

tur 命令 2 人称複数・行きましょう「さあ、(君たち) 立ち上がりなさい。行きましょう。」

この意味での用法はなぜか命令形のものが多く、平叙形にすると容認されない。

(4) ***Şamay saġat 7de turdu.**

シャマイ(人名)・時・7に・**tur** 過去 3 人称
・「下がる、どく、向く、居場所を変える」

(5) **Beri turuguz!**

こちら側・**tur** 命令 2 人称複数「(君たち) こちらにどきなさい。」

以上のように、独立した動詞の **tur-** には「住む、暮らす、起き上がる、立つ、下がる」等の意味があることが指摘できる。

3.2 動詞+**tur-** のデータ

動詞+**tur-** の例をあげる。

oquy tur, qaray tur-, uşhuvur ete tur, telefon ete tur süyelip tur, olturup tur, tayanıp tur, canıp tur, cabılıp tur, oqup tur, içip tur, qarap tur, uşhuvur etip tur, telefon etip tur, süyele tur, oltura tur, tayana tur, cana tur, açıla tur, cabıla tur, çiriy tur,

以下、これらの例を考察する。

(6) **Şamay bu saġatta kitap oquy turat.**

シャマイ(人名)・この・ときに・本・読んで・**tur**
三人称「シャマイは今 本を読んでいる。」

動作の進行を表すと考えられる。

(7) **Şamay bu saġatta kitap oqup turat.**

シャマイ(人名)・この・ときに・本・読んで・**tur**
三人称「シャマイは、最近よく本を読む」

動作の反復あるいは習慣を表すと考えられる。

これ以外の、**suw içe tur- / içip tur-**「水を飲む」、**televizyonğa qara tur- / qarap tur-**「テレビを見る」**uşhuvur ete tur- / etip tur-**「料理を作る」等においても同様の「進行／反復・習慣」の違いが見られる。

(8) **Tereze açıla turat.**

窓・開く **e・tur** 三人称「窓は、開けられようとしている。」

開けられる途中でまだ開いていない。

(9) **Tereze açılıp turat.**

窓・開く **-p・tur** 三人称「窓が開いている。」

結果の残存を表す。

(10) **Eşik cabıla turat.**

扉・閉まる **-e・tur** 三人称「扉は、閉まろうとしている」

閉まる途中でまだ閉まっていない。

これ以外の、**aşarıq çiriy tur- / çirip tur-**「食べ物腐る」等においても同様の「途中／結果の残存」の違いが見られる。

以上のデータから次のようなことが観察される。

- ・ **tur-** の前に来る動詞の語末の形の違い
- ・ 「進行」「結果の残存」「～しつつある」「いつも～する」という意味の違い

である。

これらはいずれも基本的には日本語の「～ている」に相当すると考えられる。ただし、これらのデータを観察すると、**tur-**の前に来る動詞に 2 種類の形が見られる。すなわち、動詞 **-e** という形と動詞 **-p** という形である。

ここまでをまとめると、エスキシェヒル・カラチャイ語の動詞+*tur*には、*tur*-の前に来る動詞の形に少なくとも2つの形があることが明らかになった。

それでは、これらの関係、どのような動詞のどのような形と*tur*-が結びついたときにどのような意味になるのだろうか。

4. 分析

前章で見たデータを分析する。分析は、立場としては語彙主義に立つ主辞駆動句構造文法(Head-driven Phrase Structure Grammar: HPSG) [4]によるが、具体的にはHPSGに語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure: LCS)を組み込んだものを分析に用い、分析デバイスはLCSが中心になる。

4.1 LCS

LCSはJackendoff[5]によって提唱された意味に関する理論である。

LCSには、研究者よる、あるいは、同じ研究者によるものでもバージョンによる違いがあるが、本研究では先行研究[6]にもとづき、次の基本述語を分析の前提にしている。

CAUSE : 外的な誘因が対象物の変化を引き起こすことを表す。

ACT : 継続的あるいは一時的な「活動」を表す。主語の意思によって活動のはじめと終わりを決めることができる。

ON : ACTと一緒に用いられると働きかけの対象を示す。

BECOME : 「変化」を表す。

BE : 静止した「状態」を表す。

AT : BEと一緒に用いられて、抽象的状态、物理的位置を示す。

これら基本的述語の組み合わせにより、具体的な語におけるLCSにもとづく語彙情報は次のようになる。

活動自動詞 : [1]ACT]

働きかけ他動詞 : [1]ACT ON-2]

変化自動詞 : [BECOME [2] BE AT-3]

使役他動詞 : [[1]ACT (ON-2)] CAUSE [BECOME [2] BE AT-3]]]

これらの中で本研究においてとりわけ重要なものは、基本述語ACTである。この基本述語は、先にも述べたように主語の意志が関与している。このため、意志を表す副詞的修飾語句と相性がいいことが指摘できる。たとえば日本語で言うところの「わざと」などのような副詞的修飾語句である。本研究では、LCSにおける基本述語ACTを分析において重視する。

4.2 データの分析

前章でとりあげたデータを分析する。

(11) Şamay bu sağatta kitap oquy turat.

この文における動詞oqu-を用いた過去形の文は次のようになる。

(12) Şamay ol kitapnı oqudu.

シャマイ・その・本を・読んだ「シャマイはその本を読んだ。」

この例におけるoqu-「読む」という動詞は意志性つまりACTを持つと考えられる。これは、「わざと」を表すmahsusを用いた、

(13) Şamay ol kitapnı mahsus oqudu.

シャマイ・その・本を・わざと・読んだ「シャマイはその本をわざと読んだ」が容認されることから裏付けられる。

以上はいわゆる他動詞の例であるが、いわゆる自動詞の例を見てみると次のようになる。

(14) Sabiy tepsey turat.

こども・おどる-e・tur 三人称「こどもが踊っている。」

teps-という動詞は、

(15) Sabiy mahsus tepsemi.

こども・わざと・おどった「こどもはわざと踊った。」

が容認されることから、ACT を持つと考えられる。

以上のことから、自動詞他動詞にかかわらず、「ACT を持つ動詞-e tur-」は継続を表すと考えられる。

これに対して、tur-の前にくる動詞の形が-p である例は次のようになる。

(16) Şamay bu sağatta kitap oqup turat.

シャマイ(人名)・この・ときに・本・読んで・tur 三人称「シャマイは、最近よく本を読む」

「ACT を持つ動詞-p tur-」は動作の繰り返しを表すと考えられる。

次に、意味的に別のグループに属すると考えられる動詞の例を見る。

(17) Tereze açılıp turat.

窓・あく-p・tur(三人称)「窓があいている。」

この例における動詞 açıl- の意志性を mahsus との共起関係で見ると次のようになる。

(18) *Tereze mahsus açıldı.

窓・わざと・あいた

したがって、açıl- には ACT がないと考えられる。このように、ACT が存在しない動詞が-p という接尾辞をとり tur-と結びついたときは、結果の残存を表すと考えられる。それでは、açıl-のような、ACT を持たないと考えられる動詞が-e 形をとって tur-と結びついたときはどうなるのだろうか。çiri-「腐る」を例にとると次のようになる。çiri- という動詞の意志性を見ておく。

(19) *Aşarlıq mahsus çiridi.

食べ物・わざと・çiri 過去

この文が容認されないことから、çiri- には意志性がない、すなわち ACT を欠くと考えられる。次に、çiri- が tur- と結びついた例を見ると次のようになる。

(20) Aşarlıq çiriy turat.

食べ物・腐る-e・tur 三人称「食べ物が腐りつつある」

これは、腐る途上でまだくさってはいない、つまり、もう少しで結果状態にたどりつく、という意味を表す。

このようなことから、ACT を持たない動詞が-e 形になって tur-と結びついたときは、もう少しで結果状態になるという意味になるということが出来る。

4.3 まとめ

以上見てきたように、エスキシェヒル・カラチャイ語の動詞+tur は、動詞が持つ意味と、tur-の前に来る動詞の形によって全体のアスペクトが決まることがわかった。

これらをまとめると次のようになる。なお、+ACT は動詞の LCS に ACT を持つもの、-ACT は動詞の LCS に ACT を持たないもの、-e は tur-の前に来る動詞の形 (-e 以外に -a, -y を含む)、-p は tur-の前に来る動詞の形 (-p 以外に -ip, -ip, -up, -üp を含む) を表す。なお、下ではもう少しで結果状態にたどりつくことを「途上」と記した。

	+ACT	-ACT
-e	進行	途上
-p	反復	残存

5. 結論

本研究で明らかになったことは次のとおりである。

・tur が組み合わさる動詞は、その動詞の LCS に ACT を持つかどうかで意味の違いが見られる。

・tur-と組み合わさる動詞は、-e, -p 等の形式を伴うが、それら形式の違いによって意味の違いが見られる。

参考文献

[1] Seegmiller, Steve (1996). *Karachay*. München: LINCOM EUROPA.

[2] 金田一春彦 (1950). 「国語動詞の一分類」『言語研究』15.

- [3] 藤家洋昭 Akbay Okan Haluk. 準備中. 未公刊.
- [4] Sag I. A. & Wasow T. (1999). *Syntactic Theory: A Formal Introduction*. CSLI.
- [5] Jackendoff, R. (1990). *Semantic structures*. MIT Press.
- [6] 影山太郎 (1999). 『形態論と意味』くろしお出版.